folklore
フォークロール

知っておきたいキリスト教のことば （143）

伝承 でんしょう

聖書を読んでいて、「おや？」と疑問を感じたことはないでしょうか。複数の福音書を読み比べていて、登場人物の名前が変わっていたり、特定の福音書にしか名前が出てこない人もいたりします。また特定の福音書にしか出てこない物語や奇跡もあります。

たとえばイエス様に声を掛けられて弟子になる徴税人の名前はルカ福音書ではレビ（5 章 27 節）であるのに対し、マタイ福音書ではマタイ（9 章 9 節）になっています。

また盲人バルティマイはマルコにしか出てきませんし、イエス様に香油を注いだのがベタニアのマリアだと書いているのはヨハネ福音書だけです。

現在の聖書学では、聖書のそれぞれの書物は一人の人が書いたのではなく、様々な伝承が集められて編集され、出来上がったと考えられています。（どのような過程で出来たと考えられているのか、詳しくは「Q 資料」の項目を参照してください。）

聖書の中にも、「伝承」そのものを意味する言葉が出てきます。イエス様はマタイ福音書 5 章 21 節で「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている」と言われます。この『』の内容が「伝承」です。

またパウロは一コリント 11 章 23 節の前半で、「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです」と言います。この「伝えた」、「受けた」という言葉は、「伝承」をあらわしています。

わたしたちは聖書から、様々な伝承を受け継いでいます。その伝承を、次の世代に伝えていきましょう！

次回は「伝道」です。お楽しみに。

「アテネで布教する使徒パウロ」
（タペストリー下絵）
ラファエロ・サンティ
（1483～1520 年）

――ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、

（マルコによる福音書 7 章 3 節）